

観光におけるトランスクリエーションデザインメ ソッドの活用に関する研究

森田, 正大

<https://hdl.handle.net/2324/4784633>

出版情報 : Kyushu University, 2021, 博士 (芸術工学) , 課程博士
バージョン :
権利関係 :



氏 名 : 森田 正大

論 文 名 : 観光におけるトランスクリエーションデザインメソッドの活用
に関する研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

日本では、地方創生の柱として「観光」が注目され、今後益々様々な国や地域から観光客が訪れて文化や価値観の異なる人々との交流が盛んになるとともに、観光に求められる価値の多様化が加速すると予想される。そのような中、観光客を受け入れる各地域では、この文化や価値観の多様化に対応するための方法論が求められている。そこで、本研究では、これらに対応するための方法論として、単なる言語の翻訳だけでなく、双方の文化的な差異を考慮したコミュニケーションプロセスであるトランスクリエーション (Transcreation) の概念が有効であると仮定し、観光におけるトランスクリエーションの活用を指向する。この Transcreation (トランスクリエーション) とは、Translation (翻訳) と Creation (創造) を掛け合わせた造語であり、単に言葉を変換する翻訳ではなく、メッセージの持つ意味や意図、文脈、スタイル、ニュアンス等を原文からターゲットとする別の言語に適応させるクリエイティブなプロセスを指す。これまでグローバルにビジネスを展開する企業では、地域の特性や文化、価値観等に合わせた広告マーケティング戦略が数多く試行されてきた。その中で、1960年代より主に欧米の広告業界で使われてきたのがトランスクリエーションである。

なお、文化や価値観の多様化は、国外のみならず国内においても地域や世代等が異なれば生じるため、本研究では国内外を含むすべての観光客を対象とし、観光客を受け入れる各地域および地域の価値を実際に創造・発信する人々 (アクター: Actor) と観光客の双方に効果をもたらすことで、観光の多様化への対応を実現する方法論の確立を目指す。

また、各地域では観光の促進に向けて、このような文化や価値観の多様化に対応した地域価値の創造や観光資源の開発が求められるが、これらにトランスクリエーションの概念を適応させるためには新たなデザインプロセスやツールが必要となる。そこで、本研究においてこれらの開発を行い、観光の現場で実装可能なデザインメソッドとして「トランスクリエーションデザインメソッド (Transcreation Design Method)」を提示することが本研究の目的である。

本研究は、本編 6 章と序章および終章からなり、各章の内容は次の通りである。序章では、まず本研究の背景について述べ、研究の目的を明らかにする。そして、本研究の構成を示す。第 1 章では、地域や地域デザイン、観光、そして異文化コミュニケーションの分野に関する先行研究レビューを行う。第 2 章では、トランスクリエーションの概念を整理し、事例、プロセス、レベルについて概観した後に、トランスクリエーションを観光の現場で活用するために概念の拡張を行う。また、トランスクリエーションに関する先行研究レビューから本研究の新規性を示す。第 3 章では、地域の価値を発現させる際にトランスクリエーションを活用することの意義やそれによって得られる効果を示した後、岐阜県高山市の取り組みについて事例研究を行う。そして、その事例研究から、外国人観光客を対象としたトランスクリエーションによる地域価値発現プロセスを示す。第 4 章では、

観光における地域価値の発現に既存のデザイン思考を用いることの問題点を示した後、トランスクリエーションの概念から導出したデザインメソッドおよびモデルを提示する。また、デザイン思考との比較からこのデザインメソッドおよびモデルの特徴を明らかにするとともに、モデルに必要とされるツールの要素について整理する。第 5 章では、先行研究および前章で整理した内容を基に、モデルに必要とされるツールを創造する。次に、愛媛県松山市において観光に関する調査を実施し、モデルおよびツールの実践および評価を行う。第 6 章では、先行理論を概観し、観光における地域価値の創造に向けたデザインフレームワークを創出する。そして、前章の調査で明らかとなった問題点に対してこのデザインフレームワークを活用し、新たな地域価値の創造が可能となることを示す。終章では、本研究のまとめを行い、今後の展望を示す。